



Tosa Junior & Senior High School

# 振興会だより

編集責任者 広報担当 高木直之 発行者 振興会会長 島内祥宏

E-mail: chairman.sinkokai@gmail.com 2008年(平成20年7月発行)



夢が現実に!

新校舎一期工事完成

新校舎への引越し、

新しい学校生活のスタート

- 校長室だより
- 振興会新会長就任のご挨拶
- がんばる部活動
- 平成20年度入試の総括
- 83回生の受験を振り返って
- 2008進学講演会報告
- 念願の新校舎一期工事完成
- 引越しの第一ステップ前半を終えて
- 高知とガーナの架け橋
- 第17回連絡協議会報告
- あとがき「絵金祭り」

## ● 第17回連絡協議会報告 ●

振興会理事・山尾康江

- 7月5日(土)午後2時より、土佐中等学校会議室(新校舎)において、学校と振興会の定例連絡協議会が行われました。まず、開会にあたり、島内振興会会長より挨拶、続いて池上校長はじめ各部長より次のような報告が行われました。
- 新校舎第一期工事が完了し、職員および高校生は無事新校舎に引越しをした。生徒からは概ね好評である。今後新校舎を大切に使用することを徹底していきたい。
- 旧校舎はアスベストを除去後、解体作業に入る。(夏休み中)
- パソコン室のパソコンを14台から53台に増設した。教職員にも1人1台貸与。
- 恒例のガーナ高校生と参加する原宿スパーよさこいに、今年も本校から6名が希望している。未履修科目は、現高3の現社のみとなり、中高とも正常になっている。
- 新駐輪場はラック式(レインコート)をかけるフック付)で個人指定とした。生徒からは自分の場所が確保されてよい、と概ね好評である。
- トイレは洋式になっており、男子トイレは光センサーで水が流れるようになってきている。仮図書室は旧体育館2階卓球場に引越し完了。来年は新校舎の図書室に引越し予定。
- クラスマッチ・県体・全国大会・向陽祭(2月)等の活動と準備。全国大会出場クラブについての報告。クラブ活動参加者の人数報告。
- 総合の時間に南著の出張授業で護身術講座を中3生が受講した。
- 平成21年度土佐高入試制度変更の説明。
- アスベストの調査結果報告。(環境省規定基準の0.3%)
- 文科省からの補助金で理科室の棚・IT教育設備・武道場の更衣室を新設。

その後、振興会より次のような議題が提出され、協議が行われました。

- 地域住民に対し、新校舎が住民の避難場所としての役割を果たすために、住民の代表者に避難場所の公開および懇談の機会を設けてほしい。↓県や市から地域の緊急時避難場所の指定を受けているので、住民と懇談をして災害時の準備に備えたい。
- 新校舎を維持管理していくため、生徒への掃除指導を徹底してほしい。
- 平日の保護者会開催を土日にできないものか? ↓土日にクラブの公式戦が集中している為困難。
- 災害時の危機管理マニュアルを作成し、指導徹底してほしい。特にパソコンのセキュリティは重要である。

お忙しい中参加して下さいました。先方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後とも、学校と振興会(保護者)が信頼関係を築きながら、より良い学校環境づくりが出来るよう、交流を深めていきたいと思います。

閉会后、池上校長、小村先生のご案内で新校舎の見学をさせて頂きました。たいへん立派な設備で感激したと同時に、たくさんの方々のご尽力によって出来たこの新校舎をどうか大切にして欲しいと思っておりました。



## あとがき「絵金祭り」

振興会副会長(広報担当)・高木直之

私の地元赤岡町では7月の第三土日に「絵金祭り」が開催されますので御紹介します。(振興会便りがお手元に届く頃には祭りは終わっている事が残念ですが…)

「絵金」とは広瀬金蔵(一八二一-一八七六)は、狩野派を学び二十一歳で土佐藩家老桐間家の御用絵師となりますが、贋作事件に巻き込まれ、高知城下追放となります。その後、絵金は十年間に渡る流浪の末、叔母を頼りに赤岡町に住み着き、酒蔵をアトリエに絵を描きました。絵金の描いた芝居絵屏風は、須留田八幡宮の神祭りと夏祭り「絵金祭り」の宵にだけ、商家の軒先に飾られます。極彩色の泥絵の具と圧倒的な筆の勢いで描いた二曲一双の屏風絵。屏風に描かれた芝居絵の世界は、和ろうそくの灯りに照らされて、揺らめき、動き出さんばかりの迫力で見ると心をとらわすかみにしてしまいます。町内の二十三枚の絵金の屏風絵を収蔵保存する絵金の

博物館として「絵金蔵」が三年前にオープン。指定管理者として住民ボランティア組織が運営をしています。年に一度の文化を守る為の工夫「蔵の穴」や、絵金祭りの雰囲気を感じられる「闇の展示室」等の様々な住民の知恵が織り込まれています。また昨年、平成の歌舞伎小屋「弁天座」が絵金蔵の向かいに出来ました。祭りの夜、屏風絵を題材にした土佐絵金歌舞伎が住民有志によって上演されています。

絵金の魅力の一つは、狩野派の腕を持ちながら、庶民の目線で絵を描いたところにあると思います。その為、他に無い本物のオリジナリティーが表現されています。また、時代を超え今も町おこしの核として地元住民に力を与え続けてくれています。

土佐の気候風土で育ち、土佐校で学ぶ土佐校生にも、このようなオリジナリティー溢れる土佐の文化を吸収し、更に新しいものを創り出して欲しいと思います。





盛夏の候、振興会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は学校運営に格別のご支援、ご協力をいただき有難く御礼申し上げます。

一、新校舎建築募金へのご協力に感謝

昨年1月、新校舎建築募金委員会（委員長 岡内紀雄氏）が発足し、4月から目標額四億円を目指して活動が始まりました。振興会様からは、早速これ迄の積立金二五〇〇万円をご寄付いただいたほか、各支部様からも支部余剰金の一部をご寄付いただいております。

二、新校舎建築プロジェクトの進捗状況

第一期工事の高校棟、体育館が完成し、諸使用検査をパスして6月25日引渡しを受けました。

なお、これより先6月4日には、京都大学総長 尾池和夫先生（34回生）が新校舎の免震構造を視察下さって、「南海地震と相性のいい構造、世界のモデルケースになれる」と折紙をつけていただきました（朝日新聞報）ことは大変うれしいことでありました。

高校棟への引越し

6月28～30日の3日間、高校生ならびに教職員が新校舎への引越し作業を行いました。会の有志の方々には日々ご多用の中を私ども図書室の図書

今後の建築プロジェクトの進め方

（一）校舎解体式の挙行  
7月14日にこれ迄の学び舎に感謝をこめ解体式の式典をとり行います。内容は神事、旧校舎定礎からタイムカプセル取り出し、ご披露、新校舎

梱包にお手伝いをいただきましたこと唯々有難く心より御礼を申し上げます。お陰様で生徒、教職員、業者の方々の協力のもと無事第一次の移転作業を終了することができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

7月1日から新校舎での授業が始まりました。明るく広々としたスペースや備品に加えて色々な機器設備、防災関連施設等も目新しく、喜びも大きいことながら何かとまだ戸惑うことも多い日々が続いております。

（二）夏休み中に旧体育館、中学棟を改修

7月1日からその準備に入り、7月6日より食堂の引越しのほか、旧体育館へ図書室、美術室ほかの移転改修工事に入ります。

中央棟工事現場に隣接する1A、2A、3Aの教室を中学棟1Fに移転し、旧A教室を倉庫として利用、工事の騒音、振動などの緩衝をはかります。また旧高校棟、中央棟のアスベスト撤去工事、旧高校棟の解体工事を経て、8月21日から第二期工事（エントランス部分及び中学棟の建築工事）が始まります。

（三）第二期工事の完成

平成21年6月末、エントラ

見学等となっております。振興会関係者へのご案内は本部役員、各支部長様を予定しております。また、追って一般保護者の皆様にもぜひ新校舎を見ていただきたく、その日取りを考えたいのでその折にはご参加をお願いいたします。

次いで中学棟への移転が完了次第、旧中学棟ならびに旧体育館の解体工事を経て運動場の整備がなされ、11月には全プロジェクトが完了する予定となっております。

全て完成する迄まだまだ多くの工事が残っており、問題点や困難なことにも出会うことがあるかと思いますが、誠心誠意事に当り無事故でこの建築プロジェクトを完成したいと唯々願っております。今後ともご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

時節柄皆様のご健勝を祈念申し上げ近況ご報告といたします。



振興会新会長就任のご挨拶

振興会会長 島内 祥宏

この4月より振興会の会長をつとめさせていただきます。島内です。日頃は振興会に対してご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。

また、先日の振興会主催の進学講演会では、多くの皆様にご参加を頂きました。重ねて厚くお礼申し上げます。おかげさまで大変有意義な講演会となりました。この他にも、一学期には振興会会員名簿の作成や教職員プロフィールの作成などの事業を行いました。

また、本年は校舎の改築事業という土佐中等学校の歴史に残る年となります。この事業の実施において多大なご尽力を頂きました皆様方、特に振興会の徳永前会長、国見元会長、そして歴代の役員の皆様方、そして、保護者の皆様方に敬意を表すとともに、今後とも振興会に対して貴重なご意見やご助言を頂ければ幸いに存じます。

さて、いま子供達を取り巻く環境は我々の頃とは大きく変化しております。進学における環境のみならず、日常生活における社会環境も大きく変化し、我々保護者もそれらに柔軟に対応していかなければ、子供達を守り伸ばしていくことは叶わないと思います。それには、保護者と学校と子供達が信頼関係を強め、目

的を共有し、お互いを理解し合うことが特に重要だと思えます。そのためには、現在の学校と振興会との強い信頼関係の上で、振興会としては保護者の意見や要望を学校に伝えること、学校としての考え方を保護者の皆様方に正しくお伝えすることが重要な役割だと考えております。そのためにも年3回の連絡協議会を学校の先生方と振興会評議員会で行い、意見交換を行っております。この広報誌の表紙に、振興会宛のメールアドレスを載せてありますので、皆様方のご意見をいつでも遠慮なく振興会にお寄せいただきたいと思います。

また、皆様方からお預かりした会費を有効に活用することも重要な役目であり、その使途については振興会評議員会で協議して決定しております。本年は新校舎完成に伴い、限られた学校予算で支出出来ない備品があれば、生徒に対して有益な物であるか等のことを慎重に協議した上で振興会の予算から支出していきたいと思えます。

振興会は保護者の皆様方と共に、子供達の学校生活の向上と土佐中等学校の益々の発展のためにこれからも活動してまいりますので、今後とも変わらぬご協力と積極的な参加をお願いいたします。

がんばる部活動



- 2位**
- 陸上：男子400mリレー、女子400mハードル(鈴木)、100mハードル(中谷)
  - テニス：男子ダブルス(有馬・柁谷)、男子シングルス(有馬)
- 3位**
- ハンドボール(女子)
  - 自転車(学校対抗)
  - 陸上：男子1600mリレー、女子400mリレー、男子400mハードル(土居)、女子800m(中村)

高校県体の成果

- 優勝**
- バドミントン(男子団体)
  - テニス(女子団体)
  - ハンドボール(男子)
  - 陸上：男子400m(松岡)、女子400mハードル(中谷)
  - 柔道：男子81kg級(竹内)、90kg級(竹内)、100kg級(中野)
  - バドミントン：男子ダブルス(永野・川崎)、男子シングルス(永野)
  - 自転車：3km個人追い抜き、1kmタイムトライアルスプリント(岡田)
  - テニス：女子ダブルス(森・高野)、女子シングルス(森)
  - 空手道：女子形(佐々木)

文化部の活躍

- 棋道部**
- 中学＝小中学校将棋団体戦・囲碁団体戦：ともに優勝  
高校＝全国高校総合文化祭囲碁部門  
男子個人：優勝(竹内)  
女子個人：優勝(前川)・2位(松本)  
全国高校囲碁選手権県予選  
男子個人：優勝(竹内)  
女子個人：優勝(前川)  
全国高校将棋選手権  
男子個人：優勝(一圓)・2位(橋本)

- 放送部**
- NHK杯高校放送コンテスト  
ラジオコメント部門：第1位  
アナウンス部門：3位(田辺)
- 文芸部**
- 全国高校総合文化祭 文芸部門(各分野とも県で1校のみ代表)  
散文：県代表(麻岡)  
詩：県代表(宮本)



# 平成20年度入試の総括

進路指導部長・岡松宏明先生

83回の卒業生と、捲土重来を期して1年間たゆまぬ努力をした浪人生が挑んだ20年度大学入試の結果を報告しておきます。簡単にまとめると、30年ぶりの好成績を収めた一昨年に続き、現役大学合格率・医学部を含む難関国公立合格数・難関私立大合格数、いずれをとっても大変健闘した年でした。とりわけ、北大や東大・一橋大の合格数、18年度に続き京大・阪大・神大で各2ケタの合格者を出したこと（過去20年をさかのぼってみても2度だけです）が光ります。

本校の大学入試合格者の特徴として、現役生の割合が、北大や東大・一橋大の合格数、18年度に続き京大・阪大・神大で各2ケタの合格者を出したこと（過去20年をさかのぼってみても2度だけです）が光ります。

本校の大学入試合格者の特徴として、現役生の割合が、北大や東大・一橋大の合格数、18年度に続き京大・阪大・神大で各2ケタの合格者を出したこと（過去20年をさかのぼってみても2度だけです）が光ります。

### 主要大学合格者数

国立大学	20年	19年
北海道大	5	4
東北大	1	1
筑波大	1	2
東京大	8	11
東京工業大	1	1
一橋大	5	1
横浜国立大	2	4
名古屋大	1	3
京大	13	12
大阪大	10	18
神戸大	11	6
岡山大	5	14
広島大	5	6
徳島大	9	8
香川大	5	2
愛媛大	6	7
高知大	25	30
(医・医)	14	14
九州大	1	6
高知女子大	1	2
慶応義塾大	21	19
上智大	3	5
中央大	21	17
東京理科大	24	26
明治大	18	21
立教大	7	3
早稲田大	35	27
同志社大	40	34
立命館大	82	86
関西大	22	28
関西学院大	41	57
高知工科大	14	9
国公立医学部医学科	21	24

合格者の多さが挙げられます。たとえば、京大工学部は現役7名受験中6名合格という快挙です。旧帝大など難関大でも現役の占める比率は高く、高松、愛光、また岡山朝日や岡山白陵といった中四国のトップ進学校と比較しても遜色ない結果だと思えます。国立医学部はさすがに浪人優勢ですが、その分AO入試や推薦入試で現役は健闘しましたし、自治医大の合格者は3年ぶりに現役生です。

今春卒業の83回生は、高校のスタート時には少し心配な成績でしたが、主任の先生を中心としてきめ細かな学習指導を展開した効果もあり、2年生あたりから着実に力をつけていったように思います。もちろん、学年の先生の励ましに最後まで応えて頑張った生徒諸君の努力が何よりこの成果を導いた原動力だということは言うまでもないでしょう。今春も試験直前まで各教室や406教室で勉強していた生徒はずいぶん多かったですように思います。

# 83回生の受験を振り返って 岡田容典先生

「岡田先生、自前で頑張ってくださいね。残っていますので」。「一年前、前学年主任松村先生の言葉です。昨年は81回生の浪人生と82回生の現役生が立派な受験結果を残し、それを受けての松村先生の発言でした。それを念頭に今年の大学受験結果を見ると、83回生の頑張りがひときわ輝きを増すように思います。なにしろほとんど自前ですから、ネ。

とはいももの、はじめから順風満帆だったわけではありません。高校生になつて初めての7月進研模試、「これがたまるか」というくらい悲惨な結果からのスタートでした。模試のたびに、「ヤバイ、ヤバイ」を繰り返した生徒たち。そんな生徒たちに、主任の先生方はいろいろアイデアを出してくれました。進路部長の岡松先生に、「この学年は仕掛けが多かったね」といわれたように、さまざま「仕掛け」を打っていました。

高一の夏休みには京都大学を中心としたオープンキャンパスツアーの実施。高二の夏休みには医学部志望者に対して6人の主任全員で模擬面接も行いました。〇〇大学(学部)へ行きたいという『夢から目標へ』の転換です。

長期の休み中には勉強合宿を計画。計5回実施し、延べ300人が参加しました。基本的に朝起きてから夜寝るまで、食事時間を除いてひたすら自学自習です。一人では絶対できません。でも、いつでも話ができる先生が傍にいてくれる安心感と、なにより仲間が一緒です。「努力の量、そして質へ」の転換です。

たいていの者は、努力(量×質の関数)でも最初は成果が上がりにません。ここは、我慢して努力を続けることが肝腎です。その時に夢とか目標があると、この間を我慢できます。そうすると、ある時から成果が急速に上がっていききます。一年後、高2の7月進研模試でようやく成果が表れました。そして最後まで高い目標(志望校)に向け、質の高い努力を惜しみませんでした。

生徒たちの努力もさることながら、主任の先生方も素晴らしかった。「手を離して、目を離さず」。それぞれのやり方で、生徒たちが主体的に実践できる場をつくり、生徒の要求や関心に切り込んでいったことです。その過程で、失敗や過ちから学び成長することを保障し、そこから生まれる感動を体験させていきました。それが最後のところできちんと力となりました。

かつては5月病といわれた大学進学後の卒業生たちですが、83回生に限っては無縁のようです。サークルのことをイキイキと話してくれたTくん。早速に学祭のクラス実行委員になり、仕切ったKさん。受験勉強もそれなりに楽しかったけど、大学の授業はもっと楽しいと笑顔のSさん。きつと大学に入ることが目的ではなく、入ったその先に夢があるからでしょう。

一歩先に夢の実現に向かっている者がいる一方で、高い目標がゆえに、再度チャレンジしている者もいます。ガンバって。そして、つらいときは土佐に帰っておいで。

# 2008進学講演会報告

振興会副会長 島巻 淳

6月6日(土)「RKCホール」にて、恒例行事となりました振興会主催の進学講演会が開催されました。

今年は、長年駿台予備校に勤務され、現在近畿大学の入試課で活躍中の屋木達信先生に、「大学入試の現状と受験生を持つ保護者の心構え」と題してご講演をいただきました。

硬い演題とは裏腹で、面白いエピソードやユーモア満載の大変楽しいお話を、会場は終始笑いに包まれ、盛会の内に終了いたしました。

屋木先生には、本校でもお世話になった卒業生が多く、「講演会はぜひ屋木先生に」とリクエストがあったこともあり、今回お話ししましたが、予想通りの素晴らしい講演だったと思います。

振興会内で、「DVDにして回覧してはどうか?」との意見が出たほどです。当日は中市市休と日程が重なったこともあり、参加者は前年より若干少なかったですが、皆さん最後まで熱心に聞き入っ



ておられました。

保護者の方は、「大学受験のしくみがよく解った。」「親と子のコミュニケーションの大切さを再認識した。」「子供にも聞かせたい。」「といった感想を述べておられました。

今後このような講演会を定期的に開催する予定です。今回はご参加いただけなかった方も、次回以降ぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。

## 大学入試の現状と受験生を持つ保護者の心構え

講師 屋木達信 近畿大学入学センター

皆さん、こんにちは近畿大学の屋木と申します。土佐高校では何度か講演していますが、生徒や保護者の皆さんに非常に活気があり、とても好きな学校です。今日は大学を目指す受験生を持つ親の心構えとして3つのポイントについてお話します。その3つとは、①大学入試の現状を理解すること、②良き家庭環境をつくること、③夢を持たせるコミュニケーションを大切にすること、です。

まず現在の大学入試の現状について理解して下さい。(クイズ)により取り取りあります。今、少子化が進み18歳人口が減少してありますが、これを受けて大学の人気も2極分化しています。以前のよう、理系と文系、国公立と私立といった対立軸で大学の人気・難易は図れなくなっています。国公立・私立を問わず難関大といわれている大学には受験生が集中し、変わらない難易度を維持しているのと対照的に、特に地方の中心以下の私大では受験生が集まらず苦戦している大学も多くあります。中には願書を出したが、受験しなかったのに合格通知が届いた!などという例もあるくらいです。

大学入試センター試験で必要な得点は、国公立大合格は70%。東大・京大なら90%近く、阪大や神戸大なら85%と、高い得点が必要ですが、センター試験の内容は普段学校の授業で学習することばかりです。また各大学で個別に行われる2次試験は難問もありますが、高得点を取る必要はなく50-60%できれば合格できます。難関大といえども大事なのは高校の授業をきちんと受け基礎学力を身につけることです。土台のしっかりした基礎力を身につけている受験生が最後には力を伸ばし合格をしている。つまり高校の授業を一生懸命やることもとても大切な「受験対策」であることを忘れなしてください。またその一方、入試問題の傾向や科目ごとの配点は大学により大きく異なります。志望を決めたら、志望校の入試問題の傾向を分析し、それにあった対策を立てて学習を進めることも必要です。これが「受験校対策」、「受験対策」と「受験校対策」の2つをきちんとやるのが、合格への大きなポイントです。

「よき家庭環境作り」とは、学習の物的環境を整えることを指すのではなく、仲間や、人として生きていく上で

「よき家庭環境作り」とは、学習の物的環境を整えることを指すのではなく、仲間や、人として生きていく上で

「よき家庭環境作り」とは、学習の物的環境を整えることを指すのではなく、仲間や、人として生きていく上で

「よき家庭環境作り」とは、学習の物的環境を整えることを指すのではなく、仲間や、人として生きていく上で

「よき家庭環境作り」とは、学習の物的環境を整えることを指すのではなく、仲間や、人として生きていく上で



# 念願の新校舎 一期工事完成

振興会監事 福島高明

## つくり手の「熱い心」

新校舎完成前の5月末、取材の為、建築中の現場事務所を訪問した。出迎えて下さったのは西森建築設計事務所の西森氏と清水建設の中川氏のお二人。長い面談ではなかったが、お二人からは、ものづくりの「熱い心」が伝わってきた。それは、多くの方々から付託を受け、長い間新校舎の事業全体を責務とされた学校関係者の皆様の熱意だと感じた。私にも、その「熱い心」が伝わり、取材後、校舎近くに建設中のマンションからアリーナの鳥瞰写真撮ったのだが、屋上のブルーシートが気に入らず、後日竣工直前に撮り直したほどだった。



新校舎模型で説明を受ける

## 安全への万全の配慮

〈免震・制震・耐震構造〉  
新校舎は計画段階から免震構

造を取り入れるということは周知されていたが、今回その全容を見るのが出来たので、その徹底した安全対策の中身をご紹介したい。免震ピットは基礎の部分なので外からは見られないが、特殊なゴムが積層されている。次に制震支承だ。これは地震エネルギーを吸収する役割がある。車の油圧のショックアブソーバーと同じ役割である。これを制震構造という。将来、物理、建築工学等に興味がある生徒達にとつて、新校舎は格好の教材と言えるかもしれない。アリーナの開口部には、耐震の為、えんじ色(土佐のシンボルカラー)の鉄のブレース(筋かい)がクロス状に設置されている。

## 〈安全な手摺〉

手摺の支柱には十分な強度を



50センチは変位する免震支承



プレストレストコンクリート工法による大空間

## 工夫された教室

生徒達がもっとも長くいるのが教室、勉強に励む「文」の拠点である。照明を空調のダクト配管の間に間接照明として配し、直接光源が見えない配慮をしている。また、間仕切の建具のガラスはすべて強化ガラスを採用し、万一大きな力が加わったとしても、車のガラス同様に、人体への危険を最小限に留められるようになっている。



落ち着いた雰囲気とする教室

い。そして、アリーナが一望にできる全面ガラス窓。今迄の学校づくりにはなかった斬新な形である。この形を活かし、先生方と生徒や保護者の方々の間に新たなコミュニケーションが生まれることを期待したい。床はOA床が採用されたので、配線の更新が容易になった。職員室の北側の壁面には仮設ではあるが、防災、防犯の機器が並んでいる。これらの機能の真価は、防災防犯への体制づくりや定期的な訓練がなされて初めて発揮されるだろう。

(尚、新校舎の見学会が7月27日に予定されています。)



開かれた職員室、左窓からアリーナが一望できる

**開かれた職員室**  
職員室前の相談コーナーはアークセントの効いたカーペットが敷かれている。職員室には間仕切りがない。



地震エネルギーを熱エネルギーに変換する制震支承



アリーナの全開口部に設置された耐震ブレース

持たせ、縦方向に方杖をとっている。また、高さを基準法(110センチ)より10センチ高い120センチにすることで、乗り越えの落下を防いでいる。

## 快適なコミュニケーション空間

大学施設などで、「新たな発見は、ポット」とできる環境から生まれる」とよく言われる。ゆえに緑化にも積極的である。また、欧米の学校でも教諭とのコミュニケーションにそういった環



安全性を配慮した頑強な手摺

境を活用しているようだ。アリーナへのアプローチ階段や植込みのサークルベンチはそのような効用を考えた空間づくりであろう。食堂は中柱をなくし、見通しの良い空間が広がっている。これはコンクリートスラブ(床板)の鉄筋に事前に引張りを与えた特殊工法により実現した。このように施設内には快適なコミュニケーション空間への様々な配慮がなされている。生徒達には、この恵まれた空間を活用し、より良い土佐の風土(校風)を創りあげてほしい。

## 文武両道

土佐の伝統である文武両道「武」は武道に限られたものではないが、剣道、柔道はそのシンボルといつてよいだろう。その新たな殿堂が生まれた。床の間を配した伝統的な空間は深遠な魅力がある。ここで精神の鍛錬を積んだ生徒達が文武両道の精神をもつて、リーダーシップを発揮してほしい。

## 引越しの第一ステップ 前半を終えて

教頭・三浦浩二先生

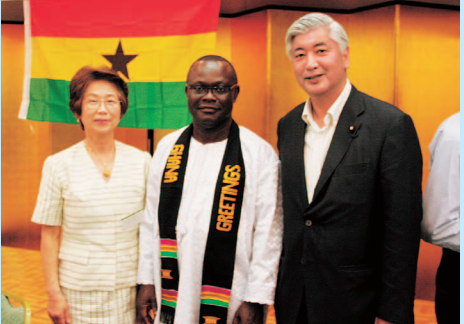
校長先生のおっしゃる「引越し大作戦」の第一ステップ前半が、6月28日から30日の3日間で無事終了しました。準備段階では種々不安もありましたが、生徒、教職員の皆さんの協力と、業務を担当していただいた四国運輸株式会社のプロの技術力のおかげで予想以上にスムーズに行うことが出来、7月1日から新校舎・新体育館での授業クラブ活動等を開始しております。6月28日には家庭学習をお願いしたり、特に図書館の引越準備では、書庫に置いてあった数千冊の書籍の箱詰め作業を振興会の皆様に担当していただきました。保護者の皆様にもこのようにたくさんのご協力をいただき、心より感謝しております。まことに有難うございました。

「引越し大作戦」の第一ステップは、7月11日の終業式後、更には8月末の中学棟1階と旧体育館1階の仮設改修が済み次第行う作業等、これから続きます。2学期が順調に迎えられるように学校としても出来るだけの準備を進めてまいります。また、保護者の皆様にご協力をお願いします。今後とも、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

## ガーナ講演会

## 高知とガーナの架け橋

六月二十五日



「ガーナよさこい」等で本校と関係の深いエベネザ・オースさん(ガーナ共和国)が6月20日、12年ぶりに第二の故郷である高知に里帰りしました。

オースさんは高知大学で昆虫学の博士号を取得、現在、国立ガーナ大学動物学部の学部長をされています。高知大留学中、ガーナで幼なじみだったモニカさんと結婚、長女が生まれる一方、青少年交流や新グラッドで毎年開催される国際交流サッカ大会では、スタッフの一員としてサッカー部や同OBとの交流を深めました。

そしてガーナ帰国後も高知との交流はつづき、本校の卒業生である浅井和子前ガーナ大使と共に「ガーナよさこい」や青少年交流事業を立ち上げたのは、ご承知の通りです。

高知滞在中は、お世話になった人に出会ただけたくさん会い、またガーナの事も伝えたいという事で、今回の講演会の開催となりました。ガーナでの生活、研究の事、そしてガーナよさこいの様子がスクリーン上で紹介され、楽しい講演会となりました。(筒井善樹)



卒業式にはこのキャットウォークから紙吹雪が舞う



包み込むように開かれたアリーナへのアプローチ階段



コミュニケーション空間としての活用が期待される